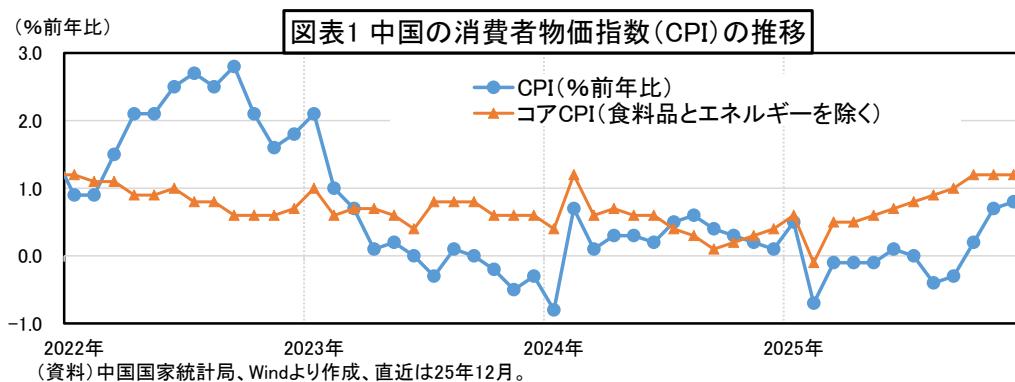
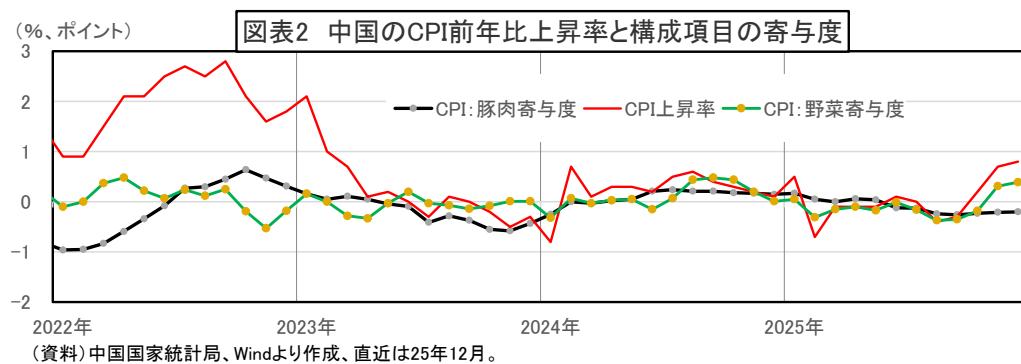


(中国)低インフレ状態が継続も物価の下落圧力は緩和

中国では低インフレ状態が続いているものの、物価の下落圧力はやや和らいだとみられる。国家統計局が発表した2025年12月の消費者物価指数(CPI)は前年比0.8%と11月(同0.7%)から上昇率が拡大し、3か月連続のプラスとなった(図表1)。CPIの構成項目をみると、食料品価格は同1.1%と11月(同0.2%)からプラス幅がさらに拡大した。



食料品のなかでは、野菜価格が同18.2%と、11月(同14.5%)から急騰が続き、CPIの上昇率(前掲0.8%)への寄与度は0.39ポイントとなった(図表2)。これがCPI上昇率の拡大をもたらす主因である。一方、豚肉価格は同▲14.6%と下落傾向が続き、寄与度は▲0.20ポイントとなった。ガソリン価格も同▲8.4%と11月(同▲7.5%)から下落幅がさらに拡大した。価格変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコアCPIは同1.2%と3か月連続で1%以上を維持した(図表1)。



また、生産者物価指数(PPI)は前年割れが続いているが、マイナス幅は縮小傾向にある。12月のPPIは前年比▲1.9%と11月(同▲2.2%)から下落幅が縮小した。前月比も小幅ながら3か月連続でのプラスとなった。今後の物価については、内需拡大策の効果や過度な値下げ競争(内巻)の抑制への取組みなどにより、CPIの前年比上昇率は回復傾向が続くと見込まれる一方、PPIが前年比下落の局面から脱却するには、しばらく時間を要するであろう。